

地域間経済活動により東京都へ誘発される二酸化炭素及び産業廃棄物の排出要因分析

東京都の都内総生産は 2003 年には国内総生産の 16.7%を占め、東京都の人口は全国の 9.6%を占めており、経済的な影響と同様に環境への影響も大きいと考えられる。また、都内総生産の約半分はその他の地域に依存している等、地域間の依存が高くなっており、地域内だけで環境問題を考えることは出来ない。経済全体として考えた場合の環境負荷を分析するには、産業連関分析が有用である。

本件旧では、1990 年、1995 年、2000 年の東京都産業連関表を用いて、東京都地域とその他地域間の経済取引の結果、相互に及ぼしあう環境影響、特に誘発二酸化炭素と産業廃棄物排出量について把握することを試みた。さらに、1990 年 - 1995 年と 1995 年 - 2000 年の各期間における二酸化炭素排出量、産業廃棄物排出量の変化要因を分析した。

分析の結果、東京都地域の最終需要を満たすためにその他地域へ誘発される二酸化炭素排出量、産業廃棄物排出量は、1990 年、1995 年、2000 年の全てでその他地域の需要を満たすために東京都地域へ誘発される二酸化炭素排出量、産業廃棄物排出量より大きかった。

その他地域からの通勤・通学者等の消費支出を満たすために東京都地域に誘発される二酸化炭素排出量は、1990 年、1995 年、2000 年の全てで、東京都地域からの通勤・通学者等の消費支出を満たすためにその他地域に誘発される排出量より大きかった。2000 年については前者のほうが大きかった。これらの結果は、生産誘発額の違いだけでなく、生産誘発される産業の種類による排出原単位の違いによりもたらされていた。特に電気・ガス・水道部門は、二酸化炭素排出原単位、産業廃棄物排出原単位の双方で大きく、排出量に大きな影響を及ぼしていた。

東京都地域へ誘発される二酸化炭素排出量は、1990 年-1995 年は減少、1995 年-2000 年は増加した。一方、産業廃棄物排出量は、1990 年-1995 年は増加、1995 年-2000 年は減少した。二酸化炭素排出量の減少要因についてはその他地域の投入係数の変化が、増加要因については東京都地域の最終需要や投入係数の変化が大きく寄与していた。産業廃棄物排出量の変化については、減少、増加要因ともに排出原単位の変化が大きく寄与していた。